

(19)日本国特許庁(JP)

## (12)特許公報(B2)

(11)特許番号  
特許第7530996号  
(P7530996)

(45)発行日 令和6年8月8日(2024.8.8)

(24)登録日 令和6年7月31日(2024.7.31)

(51)国際特許分類	F I
A 4 3 B 23/02 (2006.01)	A 4 3 B 23/02 1 0 4
A 4 3 C 1/06 (2006.01)	A 4 3 C 1/06
A 4 3 C 7/02 (2006.01)	A 4 3 C 7/02

請求項の数 7 (全17頁)

(21)出願番号	特願2022-570867(P2022-570867)	(73)特許権者	000000310 株式会社アシックス 兵庫県神戸市中央区港島中町7丁目1番1
(86)(22)出願日	令和2年12月23日(2020.12.23)	(74)代理人	110002147 弁理士法人酒井国際特許事務所
(86)国際出願番号	PCT/JP2020/048286	(72)発明者	鈴木 千早 兵庫県神戸市中央区港島中町7丁目1番1 株式会社アシックス内
(87)国際公開番号	WO2022/137407	(72)発明者	上福元 史隆 兵庫県神戸市中央区港島中町7丁目1番1 株式会社アシックス内
(87)国際公開日	令和4年6月30日(2022.6.30)	(72)発明者	大越 一輝 兵庫県神戸市中央区港島中町7丁目1番1 株式会社アシックス内
審査請求日	令和5年11月6日(2023.11.6)		

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 アッパー及びこれを備えた靴

## (57)【特許請求の範囲】

## 【請求項1】

足の甲を覆うアッパー本体を備え、  
前記アッパー本体は、  
足の中足部を覆うアッパー中足部と、  
前記アッパー中足部と連続して形成されて足底を覆うアッパー足底部と、  
前記アッパー中足部の一部に設けられ、前記アッパー本体の外縁から離れた領域である部分領域と、  
前記部分領域に形成され、前後方向に延びる開口と、  
前記部分領域から前記外縁に向かって延びた後、前記部分領域に戻るよう延びて、  
シューレースが通過可能な筒状の通路と、  
前記開口の側縁部において前後方向に互いに離隔して設けられ、前記通路の内部と外部とを連通する複数の連通部と、を備え、  
前記通路は、  
前記複数の連通部のうちいずれか1つから前記アッパー足底部に向かって延びた後、他の前記連通部まで延びる中足側通路と、  
前記中足側通路から前記アッパー足底部まで延びた後、前記アッパー足底部内で折り返されて前記中足側通路に戻るよう延びる足底側通路と、を含む、アッパー。

## 【請求項2】

前記中足側通路は、前記開口を挟んで外足側に形成された外足側通路と、前記開口を挟

10

20

んで内足側に形成された第内足側通路とを含み、

前記足底側通路は、前記外足側通路から前記アップー足底部まで延びた後、前記外足側通路に戻るよう延びる、請求項 1 に記載のアップー。

【請求項 3】

前記足底側通路は、前記アップー足底部の中足部分に配置されている、請求項 1 または 2 に記載のアップー。

【請求項 4】

前記アップー本体は、前記アップー中足部と連続して形成されて足の前足部を覆うアップー前足部を備え、

前記通路は、前記中足側通路から前記アップー前足部まで延びた後、前記中足側通路に戻るよう延びる前足側通路を含む、請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載のアップー。

10

【請求項 5】

前記アップー本体は、前記アップー中足部と連続して形成されて足の後足部を覆うアップー後足部を備え、

前記通路は、前記中足側通路から前記アップー後足部まで延びた後、前記中足側通路に戻るよう延びる後足側通路を含む、請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載のアップー。

【請求項 6】

前記アップー本体は、単一材料で形成されている、請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載のアップー。

【請求項 7】

請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載のアップーと、前記アップーの下方に位置するソールとを備えた、靴。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、アップー及びこれを備えた靴に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、シューレースを緊張させることによりアップーを足に密着させる靴が多数開発されて実用化に至っている。例えば、特許文献 1 には、着用者の足を挿入するための履き口と、履き口に連通して履き口から前方に延びる開口と、開口の左右の側縁部のそれぞれに設けられて前後方向に離隔する複数の孔とが形成されたアップーにおいて、左右の孔に交互にシューレースを通す発明が開示されている。特許文献 1 に開示された発明では、左右の孔に通したシューレースを緊張させることによりアップーを足に密着させることができる。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開 2007 - 190351 号公報

【発明の概要】

40

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

シューレースを緊張させることによって生じるアップーへの締め付け力は、アップーのうちシューレースが通される部分に近いほど強いいため、特許文献 1 に開示された発明のようにシューレースが左右の側縁部の孔に通される構造では、締め付け力が開口の左右の側縁部を中心に加わる。しかしながら、開口の左右の側縁部以外の部分にも締め付け力を加えてアップーを締め付けたい場合もある。

【0005】

本発明は、上記に鑑みてなされたものであって、シューレースを通す部分の選択の自由度を高めることができると同時に、アップーを足底側から引っ張り上げることができるア

50

ッパーを得ることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上述した課題を解決し、目的を達成するために、本発明に係るアッパーは、足の甲を覆うアッパー本体を備え、アッパー本体には、アッパー本体の外縁から離れた領域である部分領域と、部分領域から外縁に向かって伸びた後、部分領域に戻るよう伸びて、シューレースが通過可能な筒状の通路が形成されている。

【発明の効果】

【0007】

本発明に係るアッパーは、シューレースを通す部分の選択の自由度を高めることができると同時に、アッパーを足底側から引っ張り上げることができるという効果を奏する。

10

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】図1は、本発明の実施の形態1に係る靴の斜視図である。

【図2】図2は、実施の形態1に係るアッパーの展開図である。

【図3】図3は、実施の形態1に係るアッパーの上面図である。

【図4】図4は、実施の形態1に係るアッパーの外足側側面図である。

【図5】図5は、実施の形態1に係るアッパーの底面図である。

【図6】図6は、実施の形態1に係るアッパーの内足側側面図である。

【図7】図7は、実施の形態1に係るアッパーの後面図である。

20

【図8】図8は、図4に示されるV I I I - V I I I線に沿った断面図である。

【図9】図9は、実施の形態2に係るアッパーの展開図である。

【図10】図10は、実施の形態3に係るアッパーの展開図である。

【図11】図11は、実施の形態4に係るアッパーの展開図である。

【図12】図12は、実施の形態5に係るアッパーの展開図である。

【図13】図13は、実施の形態6に係るアッパーの展開図である。

【図14】図14は、実施の形態7に係るアッパーの展開図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

以下に、本発明に係るアッパー及びこれを備えた靴の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。なお、この実施例によりこの発明が限定されるものではない。

30

【0010】

以下において示す実施の形態においては、靴を平面視した状態において靴の中心を通る垂線であるシューズセンター軸が延在する方向を前後方向と称し、靴を平面視した状態において上記前後方向と直交する方向を左右方向と称する。

【0011】

また、前後方向のうち、アッパーの足の後足部を覆う部分が位置する側の末端から、アッパーの足の前足部を覆う部分が位置する側の末端を向く方向を前方と称し、前後方向のうち、アッパーの足の前足部を覆う部分が位置する側の末端から、アッパーの足の後足部を覆う部分が位置する側の末端を向く方向を後方と称する。

40

【0012】

また、足のうちの解剖学的正位における正中側を内足側と称し、足のうちの解剖学的正位における正中側とは反対側を外足側と称する。すなわち、解剖学的正位における正中に近い側を内足側と称し、解剖学的正位における正中に遠い側を外足側と称する。

【0013】

また、アッパーの前端からアッパーの前後方向の寸法の30%に相当する位置を通る左右方向に沿った線を第1境界線とし、アッパーの前端からアッパーの前後方向の寸法の80%に相当する位置を通る左右方向に沿った線を第2境界線とした場合に、第1境界線よりも前方に位置する部分をアッパー前足部と称し、第1境界線と第2境界線との間に挟まれる部分をアッパー中足部と称し、第2境界線よりも後方に位置する部分をアッパー後足

50

部と称する。

【0014】

アッパー前足部は、標準的な体型の着用者の足の前足部を覆う部分に該当し、アッパー中足部は、標準的な体型の着用者の足の中足部を覆う部分に該当し、アッパー後足部は、標準的な体型の着用者の足の後足部を覆う部分に該当する。すなわち、第1境界線は、標準的な体型の着用者のMP関節に概ね沿った線であり、第2境界線は、標準的な体型の着用者のシヨパール関節に概ね沿った線である。

【0015】

さらには、高さ方向とは、他に特段の記載がない限り、前後方向及び左右方向の両方向に直交する方向を意味し、厚さとは、他に特段の記載がない限り、高さ方向の寸法を意味する。

10

【0016】

(実施の形態1)

図1は、本発明の実施の形態1に係る靴1の斜視図である。図1には、左足用の靴1のみを図示している。靴1は、左足用と右足用とで左右対称構造であるため、本実施の形態では左足用の靴1のみを説明し、右足用の靴1の説明を省略する。靴1は、例えば、ランニング用やウォーキング用、登山用の靴、テニスやバスケットボール等のスポーツ用の靴である。靴1は、アッパー2と、アッパー2の下方に位置するソール3とを備えている。アッパー2は、主として足の甲側の部分を覆う。ソール3は、足裏を覆う。

【0017】

アッパー2は、アッパー本体20と、シュータン21と、シューレース22とを備えている。

20

【0018】

アッパー本体20は、主として足の甲側の部分を覆う。アッパー本体20の上部には、着用者の足を挿入するための履き口20aと、履き口20aに連通して履き口20aから前方に伸びる開口20bとが形成されている。アッパー本体20のうち開口20bが形成される領域は、アッパー本体20の外縁20cから離れた領域である部分領域となる。アッパー本体20の外縁20cは、組み立てられた状態のアッパー本体20を平面視したときに最も外周に位置する縁である。アッパー本体20には、開口20bから外縁20cに向かって伸びた後、開口20bに戻るように延びて、シューレース22が通過可能な筒状の通路4が形成されている。なお、通路4は、アッパー本体20の外部から視認可能に形成される場合とアッパー本体20の外部から視認不能に形成される場合とがあるが、各図では、理解の容易化のために通路4をドットハッチングで図示している。

30

【0019】

シュータン21は、着用者の足の甲を保護するための部材である。シュータン21は、アッパー本体20の内部において開口20bを覆っている。シュータン21は、アッパー本体20に縫合、溶着、接着又はこれらの組み合わせによって固定されている。アッパー本体20及びシュータン21の材料には、例えば、織地、編地、合成皮革又は樹脂が用いられる。特に通気性及び軽量性が求められる靴1においては、アッパー本体20及びシュータン21の材料には、ポリエステル糸を編み込んだダブルラッセル経編地が用いられることが好ましい。なお、アッパー本体20及びシュータン21の材料は、例示した材料に限定されない。

40

【0020】

シューレース22は、アッパー本体20の通路4に通される紐状の部材であって、アッパー本体20に着脱可能に取り付けられている。なお、シューレース22には、アッパー本体20の外部から見える部分と見えない部分とがあるが、各図では、理解の容易化のためにシューレース22の全体を破線で図示している。

【0021】

ソール3は、アウトソール30と、ミッドソール31とを備えている。ソール3は、縫合、溶着、接着又はこれらの組み合わせによってアッパー2に固定される。アウトソール

50

30の下面は、地面に設置する接地面30aとなる。ミッドソール31は、アウトソール30の上面に位置しており、クッション性を有している。なお、アウトソール30は、ミッドソール31と一体であってもよい。アウトソール30が一体化されたミッドソール31は、「ユニソール」とも称される。

#### 【0022】

次に、図2から図7を参照して、アッパー本体20の構成についてさらに詳しく説明する。図2は、実施の形態1に係るアッパー2の展開図である。図3は、実施の形態1に係るアッパー2の上面図である。図4は、実施の形態1に係るアッパー2の外足側側面図である。図5は、実施の形態1に係るアッパー2の底面図である。図6は、実施の形態1に係るアッパー2の内足側側面図である。図7は、実施の形態1に係るアッパー2の後面図である。

10

#### 【0023】

図2および図3に示すように、アッパー本体20は、標準的な体型の着用者の足の前足を覆う部分であるアッパー前足部23と、標準的な体型の着用者の足の中足を覆う部分であるアッパー中足部24と、標準的な体型の着用者の足の後足を覆う部分であるアッパー後足部25と、標準的な体型の着用者の足底を覆う部分であるアッパー足底部26とを備えている。アッパー前足部23、アッパー中足部24及びアッパー後足部25は、この順番でアッパー本体20の前方から前後方向に連なっている。アッパー前足部23は、第1境界線S1よりも前方に位置している。アッパー中足部24は、第1境界線S1と第2境界線S2との間に挟まれる部分に位置している。アッパー後足部25は、第2境界線S2よりも後方に位置している。アッパー前足部23は、アッパー中足部24と連続して形成されている。アッパー後足部25は、アッパー中足部24と連続して形成されている。アッパー足底部26は、アッパー中足部24と連続して形成されている。アッパー足底部26は、アッパー中足部24の外足側の下縁に繋がっている。アッパー足底部26は、アッパー前足部23の下縁、アッパー中足部24の下縁及びアッパー後足部25の下縁に囲まれて形成される下側開口を覆う中底となる。アッパー足底部26は、図1に示されるミッドソール31の上面に接着又は溶着によって固定される。なお、靴1は、中敷きを備えていてもよい。靴1が中敷きを備える場合、中敷きは、アッパー2の内部でアッパー足底部26の上に設置される。

20

#### 【0024】

図2に示すように、開口20bは、アッパー中足部24の一部に設けられている。開口20bは、アッパー中足部24の左右方向の中央部において前後方向に延びている。アッパー本体20には、通路4の内部と外部とを連通する複数の連通部27a-27mが形成されている。以下、複数の連通部27a-27mのそれぞれを区別せずに連通部27と呼ぶ場合もある。複数の連通部27は、開口20bの左右の側縁部において、前後方向に互いに離隔して設けられている。連通部27の数は、特に制限されないが、本実施の形態では開口20bの左右の側縁部に6つずつ設けられている。開口20bの外足側の側縁部には、前方から順番に連通部27a、連通部27b、連通部27c、連通部27d、連通部27e、連通部27fが配置されている。開口20bの内足側の側縁部には、前方から順番に連通部27g、連通部27h、連通部27i、連通部27j、連通部27k、連通部27l、連通部27mが配置されている。

30

40

#### 【0025】

連通部27は、通路4の内部と外部とを連通可能であればその構成は特に制限されないが、本実施の形態では通路4が開口20bまで延びることで形成されているか、または、アッパー本体20を上下方向に貫通するハトメ孔で形成されている。本実施の形態では、開口20bの左右の側縁部において最も後方に位置する連通部27f、27mがハトメ孔で形成されて、残りの連通部27は通路4が開口20bまで延びることで形成されている。

#### 【0026】

通路4は、中足側通路41と、足底側通路42と、前足側通路43と、後足側通路44とを含んでいる。

50

## 【 0 0 2 7 】

中足側通路 4 1 は、複数の連通部 2 7 のうちいずれか 1 つからアッパー足底部 2 6 に向かって延びた後、他の連通部 2 7 まで延びる通路である。中足側通路 4 1 は、概ね U 字状に延びている。中足側通路 4 1 は、開口 2 0 b を挟んで外足側に形成された複数の外足側通路 4 5 と、開口 2 0 b を挟んで内足側に形成された複数の内足側通路 4 6 とを含んでいる。外足側通路 4 5 と内足側通路 4 6 とは、左右対称形状である。

## 【 0 0 2 8 】

外足側通路 4 5 の数は、特に制限されないが、本実施の形態では 3 つである。3 つの外足側通路 4 5 は、前後方向に互いに間隔を空けて配置されている。以下、3 つの外足側通路 4 5 を区別する場合には、前方から順番に外足側通路 4 5 A、外足側通路 4 5 B、外足側通路 4 5 C と称する。外足側通路 4 5 のそれぞれは、1 つの連通部 2 7 からアッパー足底部 2 6 に向かって延びる第 1 外足側通路 4 5 a と、第 1 外足側通路 4 5 a のアッパー足底部 2 6 を向く端部から後方に向かって延びる第 2 外足側通路 4 5 b と、第 2 外足側通路 4 5 b の後端部から開口 2 0 b に向かって他の連通部 2 7 まで延びる第 3 外足側通路 4 5 c とを含んでいる。第 3 外足側通路 4 5 c は、第 1 外足側通路 4 5 a と繋がる連通部 2 7 の 1 つ後ろの連通部 2 7 に繋がっている。すなわち、外足側通路 4 5 は、前後方向に隣り合う 2 つの連通部 2 7 を繋いでいる。

10

## 【 0 0 2 9 】

内足側通路 4 6 の数は、特に制限されないが、本実施の形態では 3 つである。3 つの内足側通路 4 6 は、前後方向に互いに間隔を空けて配置されている。以下、3 つの内足側通路 4 6 を区別する場合には、前方から順番に内足側通路 4 6 A、内足側通路 4 6 B、内足側通路 4 6 C と称する。内足側通路 4 6 のそれぞれは、1 つの連通部 2 7 からアッパー足底部 2 6 に向かって延びる第 1 内足側通路 4 6 a と、第 1 内足側通路 4 6 a のアッパー足底部 2 6 を向く端部から後方に向かって延びる第 2 内足側通路 4 6 b と、第 2 内足側通路 4 6 b の後端部から開口 2 0 b に向かって他の連通部 2 7 まで延びる第 3 内足側通路 4 6 c とを含んでいる。第 3 内足側通路 4 6 c は、第 1 内足側通路 4 6 a と繋がる連通部 2 7 の 1 つ後ろの連通部 2 7 に繋がっている。すなわち、内足側通路 4 6 は、前後方向に隣り合う 2 つの連通部 2 7 を繋いでいる。

20

## 【 0 0 3 0 】

足底側通路 4 2 は、中足側通路 4 1 の外足側通路 4 5 からアッパー足底部 2 6 まで延びた後、中足側通路 4 1 の外足側通路 4 5 に戻るように延びる通路である。足底側通路 4 2 は、概ね U 字状に延びている。足底側通路 4 2 は、アッパー中足部 2 4 とアッパー足底部 2 6 とに跨って設けられている。足底側通路 4 2 は、本実施の形態では 3 つの外足側通路 4 5 のうち前後方向の中央に位置する外足側通路 4 5 に繋がっている。足底側通路 4 2 のうちアッパー足底部 2 6 に形成された部分は、アッパー足底部 2 6 の中足部分に配置されている。

30

## 【 0 0 3 1 】

足底側通路 4 2 は、第 1 外足側通路 4 5 a からアッパー足底部 2 6 まで延びる第 1 足底側通路 4 2 a と、第 1 足底側通路 4 2 a のうちアッパー足底部 2 6 に位置する端部から後方に向かって延びる第 2 足底側通路 4 2 b と、第 2 足底側通路 4 2 b の後端部から第 3 外足側通路 4 5 c まで延びる第 3 足底側通路 4 2 c とを含んでいる。図 4 に示すように、第 1 足底側通路 4 2 a の一部および第 3 足底側通路 4 2 c の一部は、アッパー中足部 2 4 において上下方向に延びている。図 5 に示すように、第 1 足底側通路 4 2 a の残部および第 3 足底側通路 4 2 c の残部は、アッパー足底部 2 6 において左右方向に延びている。第 2 足底側通路 4 2 b は、アッパー足底部 2 6 において前後方向に延びている。

40

## 【 0 0 3 2 】

図 2 に示すように、前足側通路 4 3 は、中足側通路 4 1 からアッパー前足部 2 3 まで延びた後、中足側通路 4 1 に戻るように延びる通路である。詳しくは、前足側通路 4 3 は、最も前方に位置する外足側通路 4 5 A からアッパー前足部 2 3 まで延びた後、アッパー前足部 2 3 の爪先付近を通して最も前方に位置する内足側通路 4 6 A まで延びている。前足

50

側通路 4 3 は、2つの第 1 前足側通路 4 3 a と、2つの第 2 前足側通路 4 3 b とを含んでいる。

【 0 0 3 3 】

2つの第 1 前足側通路 4 3 a は、シューズセンター軸 C を挟んで左右対称となる位置に設けられている。外足側に位置する第 1 前足側通路 4 3 a は、外足側通路 4 5 A の第 1 外足側通路 4 5 a と第 2 外足側通路 4 5 b との境界部から前方に向かうにつれて内足側に位置するように延びている。内足側に位置する第 1 前足側通路 4 3 a は、内足側通路 4 6 A の第 1 内足側通路 4 6 a と第 2 内足側通路 4 6 b との境界部から前方に向かうにつれて外足側に位置するように延びている。

【 0 0 3 4 】

2つの第 2 前足側通路 4 3 b は、開口 2 0 b の前方において左右方向に並んで設けられている。第 2 前足側通路 4 3 b は、概ね U 字状に延びている。第 2 前足側通路 4 3 b のそれぞれは、第 1 前足側通路 4 3 a の先端部から前方に向かうにつれてシューズセンター軸 C から離れるように延びる第 1 部分通路 4 3 c と、第 1 部分通路 4 3 c の先端部から前方に向かうにつれてシューズセンター軸 C に近づくように延びる第 2 部分通路 4 3 d と、第 2 部分通路 4 3 d の先端部から後方に向かうにつれてシューズセンター軸 C に近づくように延びる第 3 部分通路 4 3 e とを含んでいる。2つの第 2 前足側通路 4 3 b の第 3 部分通路 4 3 e の先端部同士は、互いに繋がっている。

【 0 0 3 5 】

図 3 に示すように、後足側通路 4 4 は、概ね U 字状に延びている。後足側通路 4 4 は、中足側通路 4 1 からアッパー後足部 2 5 まで延びた後、中足側通路 4 1 に戻るように延びる通路である。詳しくは、後足側通路 4 4 は、最も後方に位置する外足側通路 4 5 C からアッパー後足部 2 5 まで延びた後、アッパー後足部 2 5 の踵部分を通して最も後方に位置する内足側通路 4 6 C まで延びている。後足側通路 4 4 の長さ方向に沿った一端部は、外足側通路 4 5 C のうち後方から 2 つ目の連通部 2 7 と連通する部分付近に繋がっている。後足側通路 4 4 の長さ方向に沿った他端部は、内足側通路 4 6 C のうち後方から 1 つ目の連通部 2 7 と連通する部分付近に繋がっている。図 4、図 6 および図 7 に示すように、後足側通路 4 4 は、アッパー後足部 2 5 の上下方向の中央よりも履き口 2 0 a に寄った位置に設けられている。

【 0 0 3 6 】

図 8 は、図 4 に示される V I I I - V I I I 線に沿った断面図である。図 8 に示すように、アッパー本体 2 0 は、アッパー本体 2 0 の外部を向く第 1 層 2 0 d と、第 1 層 2 0 d と間隔を空けて配置されてアッパー本体 2 0 の内部を向く第 2 層 2 0 e と、第 1 層 2 0 d と第 2 層 2 0 e とを繋ぐ第 3 層 2 0 f とを有する。第 1 層 2 0 d と第 2 層 2 0 e と第 3 層 2 0 f とは、単一材料で一体に形成されている。アッパー本体 2 0 には、第 3 層 2 0 f が設けられている箇所と第 3 層 2 0 f が設けられていない箇所とが存在する。本実施の形態では、第 3 層 2 0 f が設けられていない箇所が通路 4 となる。つまり、通路 4 は、アッパー本体 2 0 の一部に第 3 層 2 0 f を設けないことで形成されている。

【 0 0 3 7 】

図 2 に示すように、シューレース 2 2 は、全ての外足側通路 4 5 と全ての内足側通路 4 6 とに通されている。シューレース 2 2 は、外足側通路 4 5 と内足側通路 4 6 とに交互に通されている。シューレース 2 2 は、外足側通路 4 5 A と内足側通路 4 6 B と外足側通路 4 5 C とに通される第 1 部分 2 2 a と、内足側通路 4 6 A と外足側通路 4 5 B と内足側通路 4 6 C とに通される第 2 部分 2 2 b とを有する。

【 0 0 3 8 】

第 1 部分 2 2 a の長さ方向に沿った一端部と第 2 部分 2 2 b の長さ方向に沿った一端部とは、2つの連通部 2 7 a , 2 7 g の間で互いに繋がっている。第 1 部分 2 2 a の一部および第 2 部分 2 2 b の一部は、開口 2 0 b を横切って左右方向に延びている。第 1 部分 2 2 a および第 2 部分 2 2 b のうち開口 2 0 b を横切る部分は、アッパー本体 2 0 の外部に露出している。第 1 部分 2 2 a の長さ方向に沿った他端部は、外足側において最も後方に

10

20

30

40

50

位置する連通部 27f からアップパー本体 20 の外部に露出している。第 2 部分 22b の長さ方向に沿った他端部は、内足側において最も後方に位置する連通部 27m からアップパー本体 20 の外部に露出している。図示は省略するが、第 1 部分 22a の長さ方向に沿った他端部と第 2 部分 22b の長さ方向に沿った他端部とは、蝶結び等で結束される。

【0039】

次に、本実施の形態に係るアップパー 2 の効果について説明する。

【0040】

本実施の形態では、図 1 に示すように、アップパー 2 は、足の甲を覆うアップパー本体 20 を備え、アップパー本体 20 には、アップパー本体 20 の外縁 20c から離れた領域に設けられた開口 20b と、開口 20b から外縁 20c に向かって延びた後、開口 20b に戻るように延びてシューレース 22 が通過可能な筒状の通路 4 が形成されている。この構成により、アップパー本体 20 における通路 4 の位置の設計自由度が高まり、アップパー本体 20 においてシューレース 22 を通す部分の選択の自由度を高めることができる。また、アップパー本体 20 を足底側、すなわちアップパー 2 とソール 3 との接合部分近くである外縁 20c から引っ張り上げることができる。

10

【0041】

本実施の形態では、アップパー前足部 23、アップパー中足部 24、アップパー後足部 25 およびアップパー足底部 26 に通路 4 が形成されることにより、シューレース 22 を通すルートのパリエーションが増えるため、アップパー本体 20 のうちシューレース 22 で締め付ける部分を変えることができる。

20

【0042】

本実施の形態では、図 2 に示すように、アップパー本体 20 には、通路 4 の内部と外部とを連通する連通部 27 が形成されていることにより、通路 4 へのシューレース 22 への出し入れを行うことができる。

【0043】

本実施の形態では、図 2 に示すように、アップパー本体 20 は、足の中足部を覆うアップパー中足部 24 と、アップパー中足部 24 と連続して形成されて足底を覆うアップパー足底部 26 とを備え、アップパー中足部 24 には、前後方向に延びる開口 20b が形成されている。また、連通部 27 は、開口 20b の左右の側縁部において前後方向に互いに離隔して複数設けられ、通路 4 は、複数の連通部 27 のうちいずれか 1 つからアップパー足底部 26 に向かって延びた後、他の連通部 27 まで延びる中足側通路 41 を含んでいる。このような構成において、中足側通路 41 にシューレース 22 を通して緊張させることにより、アップパー中足部 24 を下から持ち上げることができるため、着圧を分散させた心地よい締め具合を実現することができる。すなわち、シューレース 22 によってアップパー中足部 24 を下から持ち上げることで、シューレース 22 による締め付け力がアップパー中足部 24 のうちアップパー足底部 26 付近から開口 20b に亘って均一に伝わりやすくなるため、着用者の足裏付近から足の甲に亘って適度な締め付け感を与えることができる。

30

【0044】

本実施の形態では、図 2 に示すように、中足側通路 41 は、開口 20b を挟んで外足側に形成された外足側通路 45 と、開口 20b を挟んで内足側に形成された内足側通路 46 とを含んでいる。このような構成により、シューレース 22 によってアップパー中足部 24 の左右両側の部分を下から持ち上げることができるため、着圧を分散させた心地よい締め具合を左右バランス良く実現することができる。

40

【0045】

本実施の形態では、アップパー本体 20 は、単一材料で形成されているため、通路 4 を備えたアップパー 2 を容易に製造することができる。

【0046】

(実施の形態 2)

図 9 は、実施の形態 2 に係るアップパー 2A の展開図である。実施の形態 2 に係るアップパー 2A は、連通部 27 の構成が実施の形態 1 に係るアップパー 2 と相違する。なお、実施の

50

形態 2 では、前記した実施の形態 1 と重複する部分については、同一符号を付して説明を省略する。

【 0 0 4 7 】

外足側通路 4 5 の長さ方向に沿った両端部は、開口 2 0 b まで延びておらず、開口 2 0 b から離れている。内足側通路 4 6 の長さ方向に沿った両端部は、開口 2 0 b まで延びておらず、開口 2 0 b から離れている。外足側通路 4 5 の長さ方向に沿った両端部と重なる位置および内足側通路 4 6 の長さ方向に沿った両端部と重なる位置には、連通部 2 7 が設けられている。連通部 2 7 は、本実施の形態ではアッパー本体 2 0 を上下方向に貫通するハトメ孔のみで形成されている。本実施の形態では、前記した実施の形態 1 と同様の効果を奏することができる。

10

【 0 0 4 8 】

( 実施の形態 3 )

図 1 0 は、実施の形態 3 に係るアッパー 2 B の展開図である。実施の形態 3 に係るアッパー 2 B は、シューレース 2 2 を通すルートが実施の形態 2 に係るアッパー 2 A と相違する。なお、実施の形態 3 では、前記した実施の形態 1 , 2 と重複する部分については、同一符号を付して説明を省略する。

【 0 0 4 9 】

シューレース 2 2 は、本実施の形態では外足側通路 4 5 と内足側通路 4 6 と足底側通路 4 2 とに通されている。シューレース 2 2 は、外足側通路 4 5 A と内足側通路 4 6 B と外足側通路 4 5 C とに通される第 1 部分 2 2 c と、内足側通路 4 6 A と外足側通路 4 5 B と足底側通路 4 2 と内足側通路 4 6 C とに通される第 2 部分 2 2 d とを有する。第 2 部分 2 2 d は、外足側通路 4 5 B の第 1 外足側通路 4 5 a 、足底側通路 4 2 、外足側通路 4 5 B の第 3 外足側通路 4 5 c の順に通されており、第 2 外足側通路 4 5 b に通されていない。

20

【 0 0 5 0 】

第 1 部分 2 2 c の長さ方向に沿った一端部と第 2 部分 2 2 d の長さ方向に沿った一端部とは、2 つの連通部 2 7 a , 2 7 g の間で互いに繋がっている。第 1 部分 2 2 c の一部および第 2 部分 2 2 d の一部は、開口 2 0 b を横切って左右方向に延びている。第 1 部分 2 2 c および第 2 部分 2 2 d のうち開口 2 0 b を横切る部分は、アッパー本体 2 0 の外部に露出している。第 1 部分 2 2 c の長さ方向に沿った他端部は、外足側において最も後方に位置する連通部 2 7 f からアッパー本体 2 0 の外部に露出している。第 2 部分 2 2 d の長さ方向に沿った他端部は、内足側において最も後方に位置する連通部 2 7 m からアッパー本体 2 0 の外部に露出している。図示は省略するが、第 1 部分 2 2 c の長さ方向に沿った他端部と第 2 部分 2 2 d の長さ方向に沿った他端部とは、蝶結び等で結束される。

30

【 0 0 5 1 】

本実施の形態では、前記した実施の形態 1 , 2 と同様の効果を奏することができる。また、本実施の形態では、通路 4 は、中足側通路 4 1 からアッパー足底部 2 6 まで延びた後、中足側通路 4 1 に戻るように延びる足底側通路 4 2 を含み、足底側通路 4 2 にもシューレース 2 2 が通されることにより、シューレース 2 2 によってアッパー足底部 2 6 を下から引き上げることができるため、着用者の足裏にも締め付け感を与えることができる。また、本実施の形態では、足底側通路 4 2 は、アッパー足底部 2 6 の中足部分に配置されていることにより、着用者の内側縦アーチの落ち込みを抑制することができる。

40

【 0 0 5 2 】

( 実施の形態 4 )

図 1 1 は、実施の形態 4 に係るアッパー 2 C の展開図である。実施の形態 4 に係るアッパー 2 C は、シューレース 2 2 を通すルートが実施の形態 2 に係るアッパー 2 A と相違する。なお、実施の形態 4 では、前記した実施の形態 1 , 2 と重複する部分については、同一符号を付して説明を省略する。

【 0 0 5 3 】

シューレース 2 2 は、本実施の形態では一部の外足側通路 4 5 と一部の内足側通路 4 6 と足底側通路 4 2 と後足側通路 4 4 とに通されている。シューレース 2 2 は、外足側通路

50

4 5 A と内足側通路 4 6 B と後足側通路 4 4 とに通される第 1 部分 2 2 e と、内足側通路 4 6 A と外足側通路 4 5 B と足底側通路 4 2 とに通される第 2 部分 2 2 f とを有する。

【 0 0 5 4 】

第 1 部分 2 2 e は、外足側通路 4 5 A、内足側通路 4 6 B、連通部 2 7 e、後足側通路 4 4、連通部 2 7 m の順に通されている。第 2 部分 2 2 f は、内足側通路 4 6 A、外足側通路 4 5 B の第 1 外足側通路 4 5 a、足底側通路 4 2、外足側通路 4 5 B の第 3 外足側通路 4 5 c、連通部 2 7 k、2 7 f の順に通されている。

【 0 0 5 5 】

第 1 部分 2 2 e の長さ方向に沿った一端部と第 2 部分 2 2 f の長さ方向に沿った一端部とは、2 つの連通部 2 7 a、2 7 g の間で互いに繋がっている。第 1 部分 2 2 e の一部および第 2 部分 2 2 f の一部は、開口 2 0 b を横切って左右方向に延びている。第 1 部分 2 2 e および第 2 部分 2 2 f のうち開口 2 0 b を横切る部分は、アップパー本体 2 0 の外部に露出している。第 1 部分 2 2 e の長さ方向に沿った他端部は、内足側において最も後方に位置する連通部 2 7 m からアップパー本体 2 0 の外部に露出している。第 2 部分 2 2 f の長さ方向に沿った他端部は、外足側において最も後方に位置する連通部 2 7 f からアップパー本体 2 0 の外部に露出している。図示は省略するが、第 1 部分 2 2 e の長さ方向に沿った他端部と第 2 部分 2 2 f の長さ方向に沿った他端部とは、蝶結び等で結束される。

10

【 0 0 5 6 】

本実施の形態では、前記した実施の形態 1 から 3 と同様の効果を奏することができる。また、本実施の形態では、通路 4 は、中足側通路 4 1 からアップパー後足部 2 5 まで延びた後、中足側通路 4 1 に戻るように延びる後足側通路 4 4 を含み、後足側通路 4 4 にもシューレース 2 2 が通されることにより、シューレース 2 2 によってアップパー後足部 2 5 を締め付けることができるため、着用者の後足部にも締め付け感を与えることができる。

20

【 0 0 5 7 】

( 実施の形態 5 )

図 1 2 は、実施の形態 5 に係るアップパー 2 D の展開図である。実施の形態 5 に係るアップパー 2 D は、シューレース 2 2 を通すルートが実施の形態 2 に係るアップパー 2 A と相違する。なお、実施の形態 5 では、前記した実施の形態 1、2 と重複する部分については、同一符号を付して説明を省略する。

【 0 0 5 8 】

シューレース 2 2 は、本実施の形態では前足側通路 4 3 と一部の外足側通路 4 5 と一部の内足側通路 4 6 と足底側通路 4 2 と後足側通路 4 4 とに通されている。シューレース 2 2 は、前足側通路 4 3 と外足側通路 4 5 A と内足側通路 4 6 A とに通される第 1 部分 2 2 g と、外足側通路 4 5 B と足底側通路 4 2 とに通される第 2 部分 2 2 h と、内足側通路 4 6 B と後足側通路 4 4 とに通される第 3 部分 2 2 i とを有する。

30

【 0 0 5 9 】

第 1 部分 2 2 g は、前足側通路 4 3 と外足側通路 4 5 A の第 1 外足側通路 4 5 a と内足側通路 4 6 A の第 1 内足側通路 4 6 a とに通されている。

【 0 0 6 0 】

第 2 部分 2 2 h は、連通部 2 7 a、2 7 h、2 7 c、外足側通路 4 5 B の第 1 外足側通路 4 5 a、足底側通路 4 2、外足側通路 4 5 B の第 3 外足側通路 4 5 c、連通部 2 7 d、2 7 k、2 7 f の順に通されている。

40

【 0 0 6 1 】

第 3 部分 2 2 i は、連通部 2 7 g、2 7 b、2 7 i、内足側通路 4 6 B、連通部 2 7 j、2 7 e、後足側通路 4 4、連通部 2 7 m の順に通されている。

【 0 0 6 2 】

第 2 部分 2 2 h の長さ方向に沿った一端部と第 3 部分 2 2 i の長さ方向に沿った一端部とは、第 1 部分 2 2 g に繋がっている。第 2 部分 2 2 h の一部および第 3 部分 2 2 i の一部は、開口 2 0 b を横切って左右方向に延びている。第 2 部分 2 2 h および第 3 部分 2 2 i のうち開口 2 0 b を横切る部分は、アップパー本体 2 0 の外部に露出している。第 2 部分

50

22hの長さ方向に沿った他端部は、外足側において最も後方に位置する連通部27fからアップー本体20の外部に露出している。第3部分22iの長さ方向に沿った他端部は、内足側において最も後方に位置する連通部27mからアップー本体20の外部に露出している。図示は省略するが、第2部分22hの長さ方向に沿った他端部と第3部分22iの長さ方向に沿った他端部とは、蝶結び等で結束される。

【0063】

本実施の形態では、前記した実施の形態1から4と同様の効果を奏することができる。また、本実施の形態では、通路4は、中足側通路41からアップー前足部23まで延びた後、中足側通路41に戻るよう延びる前足側通路43を含み、前足側通路43にもシューレース22が通されることにより、シューレース22によってアップー前足部23を締め付けることができるため、着用者の前足部にも締め付け感を与えることができる。

10

【0064】

(実施の形態6)

図13は、実施の形態6に係るアップー2Eの展開図である。実施の形態6に係るアップー2Eは、通路4Aの数が1つである点が実施の形態1に係るアップー2と相違する。通路は、前記した実施の形態1から5のように複数でもよいし、本実施の形態のように単数でもよい。図13では、シューレース22の図示を省略している。なお、実施の形態6では、前記した実施の形態1と重複する部分については、同一符号を付して説明を省略する。

【0065】

通路4Aは、開口20bの外足側に形成されている。通路4Aは、複数の連通部27のうちいずれか1つからアップー足底部26に向かって延びた後、他の連通部27まで延びる通路である。通路4Aは、概ねU字状に延びている。通路4Aは、1つの連通部27からアップー足底部26まで延びる第1通路47と、第1通路47のうちアップー足底部26に位置する端部から後方に向かって延びる第2通路48と、第2通路48の後端部から開口20bに向かって他の連通部27まで延びる第3通路49とを含んでいる。

20

【0066】

第3通路49は、第1通路47と繋がる連通部27の1つ後ろの連通部27に繋がっている。すなわち、通路4Aは、前後方向に隣り合う2つの連通部27を繋いでいる。第1通路47の一部および第3通路49の一部は、アップー中足部24において上下方向に延びている。第1通路47の残部および第3通路49の残部は、アップー足底部26において左右方向に延びている。第2通路48は、アップー足底部26において前後方向に延びている。通路4Aのうちアップー足底部26に形成された部分は、アップー足底部26の中足部分に配置されている。アップー本体20において開口20bの左右の側縁部には、複数のハトメ孔20gが前後方向に間隔を空けて形成されている。左側の側縁部に形成されたハトメ孔20gは、通路4Aを挟んで前後に設けられている。

30

【0067】

本実施の形態では、前記した実施の形態1と同様の効果を奏することができる。なお、連通部27は、本実施の形態では通路4Aが開口20bまで延びることで形成されているが、通路4Aの長さ方向に沿った両端部と重なる位置に設けられたハトメ孔であってもよい。

40

【0068】

(実施の形態7)

図14は、実施の形態7に係るアップー2Fの展開図である。実施の形態7に係るアップー2Fは、開口20bがない点が実施の形態1に係るアップー2と相違する。なお、実施の形態7では、前記した実施の形態1と重複する部分については、同一符号を付して説明を省略する。

【0069】

本実施の形態では、開口20bがない状態のアップー2を市場に流通させて、流過程で部分領域28の裁断を行って開口20bを形成する場合を想定している。図14では、

50

理解の容易化のため、部分領域 28 の外縁を破線で図示している。裁断を行う前の通路 4 にはシューレース 22 が通されないため、図 14 では、シューレース 22 を図示していない。アップー本体 20 には、アップー本体 20 の外縁 20c から離れた領域である部分領域 28 と、部分領域 28 から外縁 20c に向かって延びた後、部分領域 28 に戻るように延びてシューレース 22 が通過可能な筒状の通路 4 が形成されている。部分領域 28 は、アップー中足部 24 の一部に設けられている。部分領域 28 は、アップー中足部 24 の左右方向の中央部において、前後方向に延びている。

#### 【0070】

部分領域 28 を裁断することによって、図 2 に示される開口 20b を形成することができる。これにより、第 3 層 20f が無い通路 4 の一部が開口 20b に連通して、アップー本体 20 に連通部 27 が形成されるため、連通部 27 を通じて通路 4 へのシューレース 22 の出し入れが可能になる。

10

#### 【0071】

以上の実施の形態に示した構成は、本発明の内容の一例を示すものであり、別の公知の技術と組み合わせることも可能であるし、本発明の要旨を逸脱しない範囲で、構成の一部を省略、変更することも可能である。前記した実施の形態 1 から 5 にかかる通路 4 にシューレース 22 を通すルートは、図示した例に限定されない。例えば、シューレース 22 が前足側通路 43 と外足側通路 45 と内足側通路 46 のみに通されてもよいし、シューレース 22 が外足側通路 45 と内足側通路 46 と後足側通路 44 のみに通されてもよい。

#### 【0072】

前記した実施の形態 1 から 5, 7 にかかる通路 4 のうち足底側通路 42、前足側通路 43 および後足側通路 44 のうちいずれか 1 つ以上を省略してもよい。足底側通路 42 を省略する場合には、アップー足底部 26 を省略してもよい。また、通路 4 の位置や形状は、図示した例に限定されず、アップー本体 20 のうちシューレース 22 で締め付けたい部分に合わせて適宜変更してよい。また、前記した実施の形態 1 から 7 では、アップー本体 20 が単一材料で形成されているが、アップー本体 20 が複数材料を組み合わせ形成されてもよい。また、前記した実施の形態 1 から 7 では、アップー本体 20 が第 1 層 20d と第 2 層 20e と第 3 層 20f とを有する 3 層構造である場合を例示したが、アップー本体 20 が単層構造、3 層以外の複数構造でもよい。

20

#### 【符号の説明】

#### 【0073】

1 靴、2, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 2F アップー、3 ソール、4, 4A 通路、20 アップー本体、20a 履き口、20b 開口、20c 外縁、20d 第 1 層、20e 第 2 層、20f 第 3 層、20g ハトメ孔、21 シュータン、22 シューレース、22a, 22c, 22e, 22g 第 1 部分、22b, 22d, 22f, 22h 第 2 部分、22i 第 3 部分、23 アップー前足部、24 アップー中足部、25 アップー後足部、26 アップー足底部、27, 27a, 27b, 27c, 27d, 27e, 27f, 27g, 27h, 27i, 27j, 27k, 27m 連通部、28 部分領域、30 アウトソール、30a 接地面、31 ミッドソール、41 中足側通路、42 足底側通路、42a 第 1 足底側通路、42b 第 2 足底側通路、42c 第 3 足底側通路、43 前足側通路、43a 第 1 前足側通路、43b 第 2 前足側通路、43c 第 1 部分通路、43d 第 2 部分通路、43e 第 3 部分通路、44 後足側通路、45, 45A, 45B, 45C 外足側通路、45a 第 1 外足側通路、45b 第 2 外足側通路、45c 第 3 外足側通路、46, 46A, 46B, 46C 内足側通路、46a 第 1 内足側通路、46b 第 2 内足側通路、46c 第 3 内足側通路、47 第 1 通路、48 第 2 通路、49 第 3 通路、C シューズセンター軸。

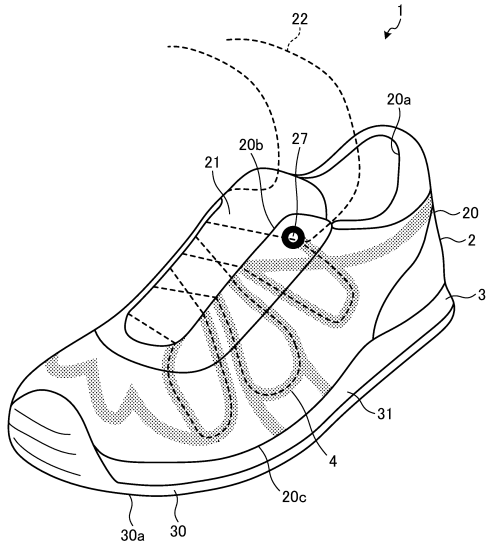
30

40

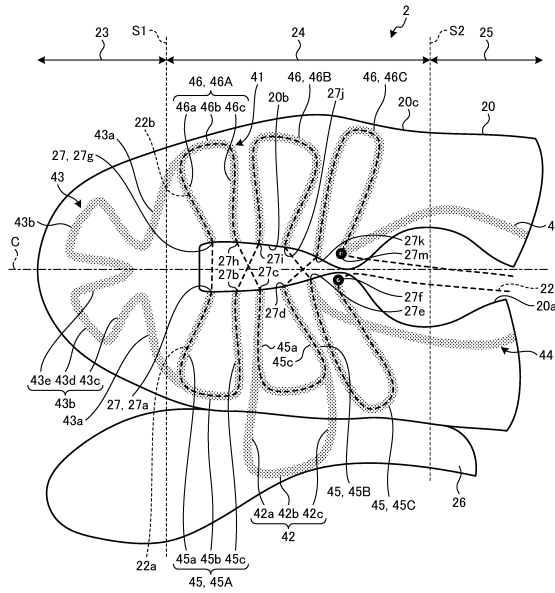
50

【 図面 】

【 図 1 】



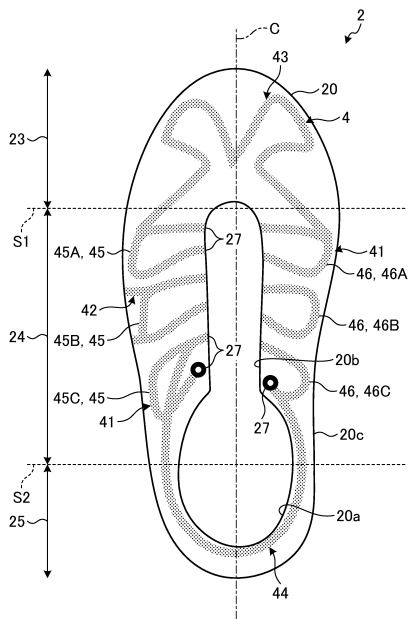
【 図 2 】



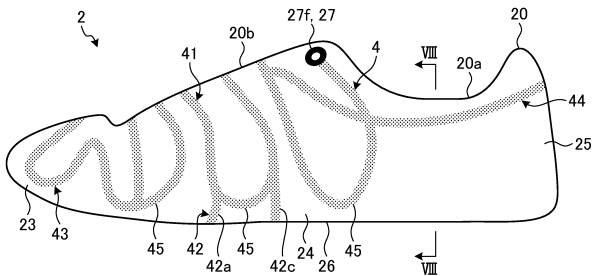
10

20

【 図 3 】



【 図 4 】

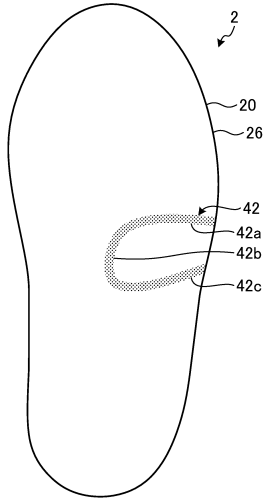


30

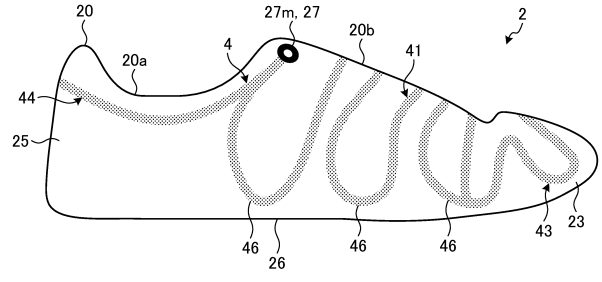
40

50

【 図 5 】

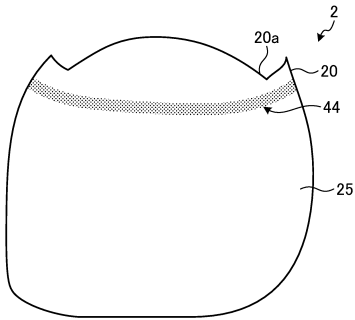


【 図 6 】

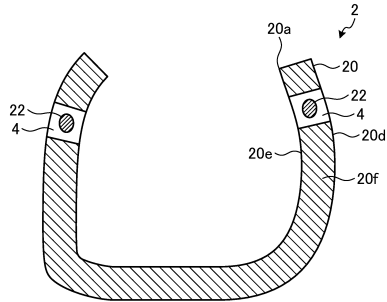


10

【 図 7 】



【 図 8 】



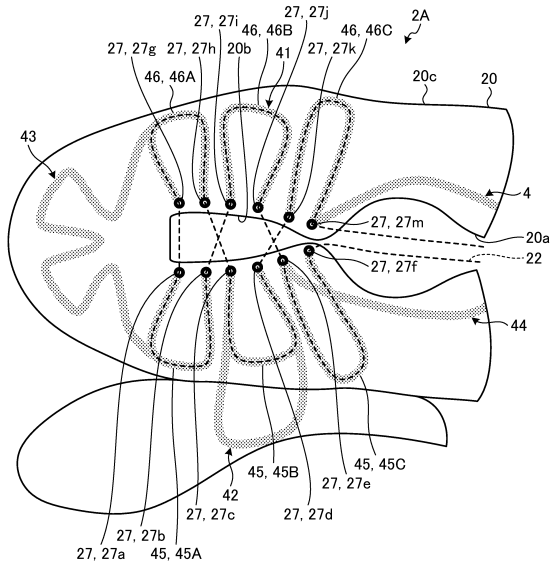
20

30

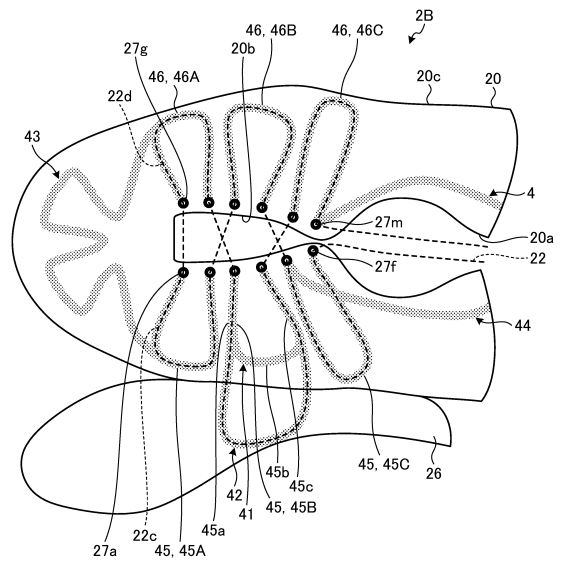
40

50

【図 9】



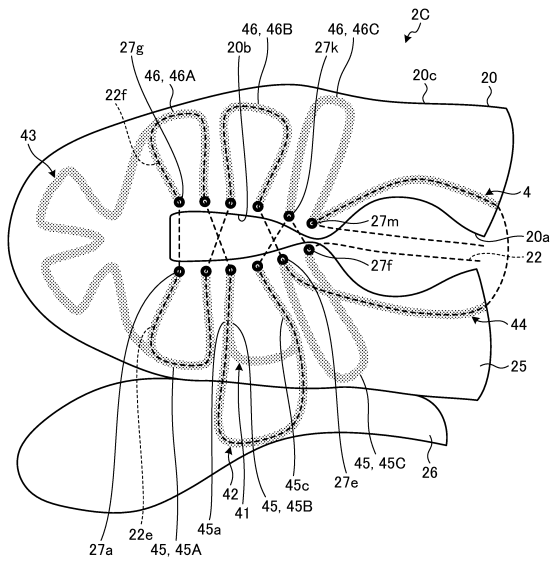
【図 10】



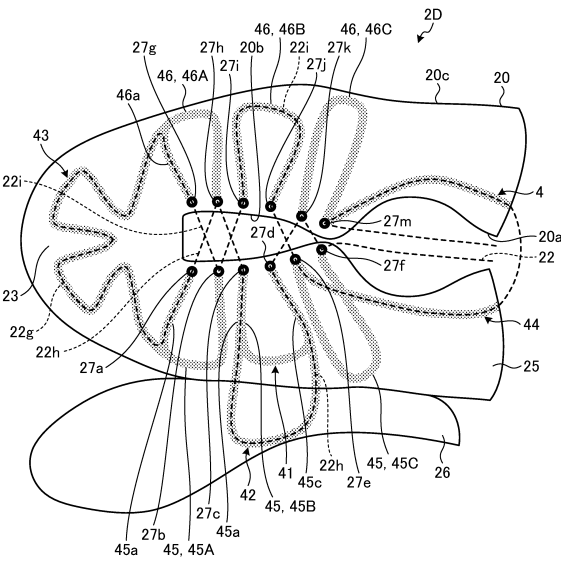
10

20

【図 11】



【図 12】

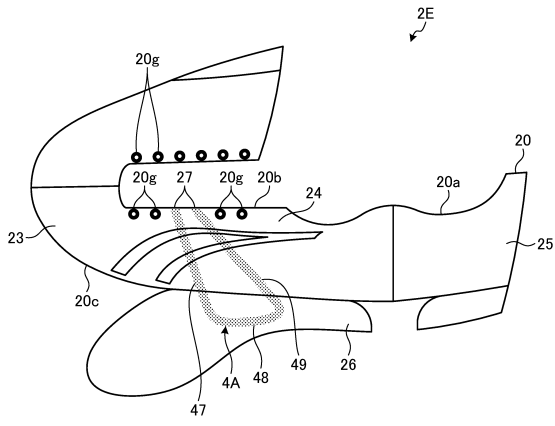


30

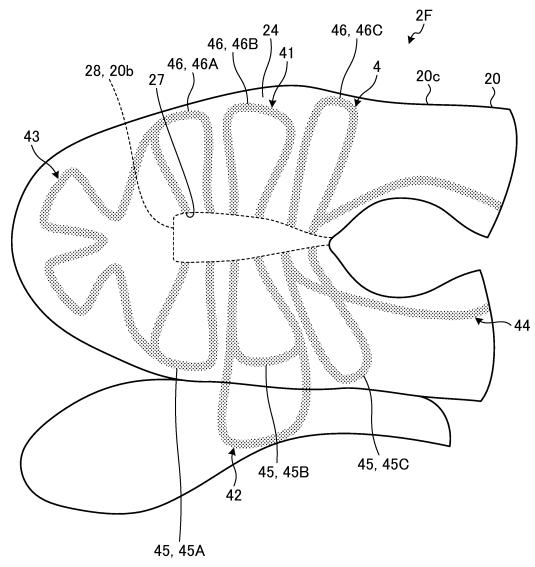
40

50

【 図 1 3 】



【 図 1 4 】



10

20

30

40

50

## フロントページの続き

審査官 渡邊 洋

- (56)参考文献 特表2015-536207(JP,A)  
特表2012-512698(JP,A)  
米国特許出願公開第2020/0037708(US,A1)  
特表平09-509594(JP,A)  
特表2016-516458(JP,A)  
特表2016-536083(JP,A)  
特許第3027183(JP,B2)  
米国特許出願公開第2015/0059206(US,A1)  
欧州特許出願公開第03750435(EP,A1)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)  
A43B 1/00 - 23/30  
A43C 1/00 - 19/00  
A43C 1/00 - 999/00